

# 宮崎ワシントニアパーム更新の取組状況

河野 麻耶<sup>1</sup>・谷口 廉宏<sup>1</sup>・安岡 大輔<sup>1</sup>

<sup>1</sup>九州地方整備局 宮崎河川国道事務所 道路管理第2課（〒880-8523 宮崎県宮崎市大工 2-39 番地）

宮崎の国道 10 号・国道 220 号の中央分離帯にワシントニアパームが植栽されており、南国宮崎を象徴した地域資源となっている。しかし、台風や風の強い日には、枯れ枝の落下による道路瑕疵が発生しており、剪定作業における維持管理面や倒木リスクにおける生態面からも今後植え替えが必要であるとされている。

宮崎河川国道事務所で行っている更新計画の内容と地域資源となっているワシントニアパームを次世代につなぐために行っている広報活動について報告するものである。

**Key Words:** ワシントニアパーム, 維持管理, 道路景観, 地域資源, 体験学習

## 1. はじめに

現在、当事務所が管理する国道 10 号及び 220 号には延長 14.7km にわたり、830 本のワシントニアパームが植栽されている。

宮崎の観光事業を引っ張ってきた岩切章太郎氏は、世界各地の観光地をめぐりそれをヒントに、宮崎の道路に植栽を植え始めた。その一環として南宮崎駅から旧宮崎交通本社前にワシントニアパームを植栽した事が、ワシントニアパームの始まりとされており、昭和 30~40 年代に新婚旅行のメッカとして全国から多くの観光客が訪れるようになった。のちに、宮崎の大動脈となっている国道 10 号や 220 号の中央分離帯にも植栽され、当初 3~4m 程度の高さだったワシントニアパームは現在 15~20m まで成長しており高さと左右対称の姿、並木の連続性から宮崎の景観を印象的にしている(写真-1)。

植栽当初 (S54)

現在



写真-1 ワシントニアパームの成長写真

また、宮崎県には「県内の優れた自然景観や樹木・植物」を保護することを目的に沿道修景美化条例を定めており、昭和 46 年協定を締結し、国と県が協力して国道 10 号と 220 号を維持管理することとなっている。さらに昭和 55 年には南宮崎パイパスが沿道修景植栽地区に指定されるなどワシントニアパームが植栽されている国道 10 号・220 号の修景・管理は県内でも重要視されておりワシントニアパームは南国宮崎のシンボルといえる存在である。

## 2. 維持管理における現状と課題

個性的な景観を形成しているワシントニアパームだが、台風や風の強い日には、枯れ枝が道路に落ち(写真-2)、過去にはフロントガラスが損傷する管理瑕疵が発生している(写真-3)。



写真-2 台風後の枯れ枝



写真-3 管理瑕疵事例

そのため、落下防止対策として落下防止ベルトの装着や、年に1回程度高所作業車を使い剪定作業を行っている(写真-4)。しかし高所作業車が1車線の規制幅の中で剪定作業可能な高さは27~32mまでであり成長が進むにつれ作業の困難さが増大していく(図-1)。また、過去の事例を考慮すると寿命は約100年と想定され、今後約35年後には一斉に寿命に達し生態面からも植え替えが必要と考えられる。そのため、ワシントニアパームの景観的特徴となっている「高さ」「左右対称の姿」を残しつつ、安全管理面・生態面からワシントニアパームの植え替え計画の検討を行っている。



写真-4 剪定の様子

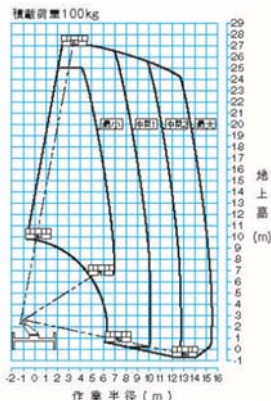


図-1 作用範囲図  
(高所作業車)



写真-5 検討会



写真-6 合同現地踏査

### 3. 維持管理検討会

#### (1) 目的

更新計画の進め方として、宮崎河川国道事務所が事務局となり有識者と関係行政機関からなる「宮崎ワシントニアパーム維持管理検討会」を設立している(写真-5)。検討会は、ワシントニアパームのある道路景観を維持しつつ、地域持続可能な植え替え計画を策定することを目的としており、検討会で多様な意見を聴取することによ

#### (2) 検討内容

現在、検討会ではワシントニアパームの今後の維持管理のあり方について、「更新箇所」「更新パターン」「既存木の活用方法」「苗木の調達方法」等の検討を行っているが、今回は主な検討項目としている「更新箇所」「更新パターン」について紹介する。

##### a) 植え替え箇所の検討

ワシントニアパームの植え替え箇所については、現在ワシントニアパームが植えられている14.7kmを7区間に分け(図-2)、優先順位の高い箇所から植え替えを行う

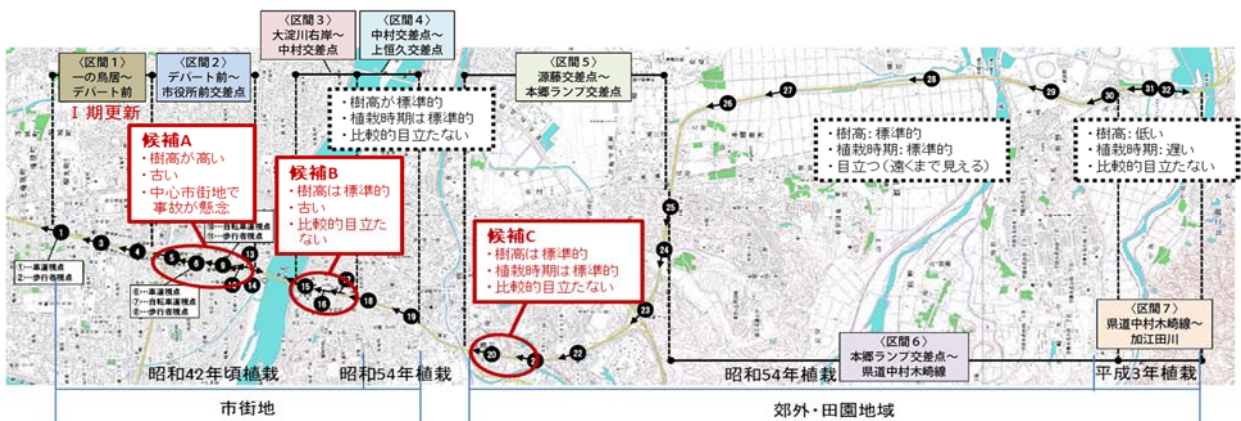


図-2 植え替え候補箇所

事としている。優先順位の付け方としては①倒木リスクが高い区間②交通量の多い区間③目立ちすぎない区間の3つを基本的な選定条件として順位の検討を行っている。

過去の委員会結果からI期更新区間を選定済みであり、現在はI期更新区間の植え替えに続くII期更新区間の選定場所を検討中である。

II期更新区間については候補区間を3区間に絞り検討を行っている。候補Aは市街地区間であり車両が多いため、管理瑕疵が懸念されている場所であり樹高が高い箇所になる。候補Bについても、市街地部ではあるが候補Aほど車両は多くなく比較的樹高は標準的であり目立ちづらい箇所となっている。郊外である候補Cについては目立ちづらい箇所ではあるが、樹高や樹齢は比較的標準的である。

市街地区間については、歩行者が多い事を踏まえ、歩行者目線から見た景観を検討していく必要がある。また郊外区間は、歩行者が少なく車両で通る事が多い箇所となるため、走行速度の速い車両からの視点場である事を考慮して検討していく必要がある。

#### b) 植え替えパターンの検討

更新パターンについては「端から植え替えを行っていく」をA案、「1本置きに植え替えを行っていく」をB案とし、2つのパターンについて検討を行う。

A案の「端から更新」とは、高さ4.5m～5mの樹高のものをまとめて植え替えていくものである(写真-7、図-3)。メリットとしては、高所作業車を使って選定作業を行う際、一律の高さであるため管理しやすいといったメリットがある一方、全体的に低くなるため寂しい印象を与える可能性があることがデメリットである。

B案の「1本置きに植え替え」とは、1本ずつ飛ばして植え替えていく方法である。(写真-8、図-4)。メリットとして、景観的特徴である「高さ」を維持できるが、左右で高さに差があるため高所作業車を使って剪定する際に、管理がしづらいといったデメリットが挙げられる。

とくに、剪定作業にかかる維持費を考慮すると、最も樹高が高い候補A区間で試算を行った結果、現況の植え替え前の状態では、施工日数4日間、年間約550万ほどかかっているが、A案の「端から植え替え」を行った場合、選定作業等の維持管理の施工日数は1日で約100万ほどに減額できる。しかしB案の「1本置きに植え替え」を行った場合は、施工日数3日で年間400万へのコスト縮減しか効果が望めない結果になった。



写真-7 A案「端から植え替え」(CG写真)



写真-8 B案「1本置きに植え替え」(CG写真)

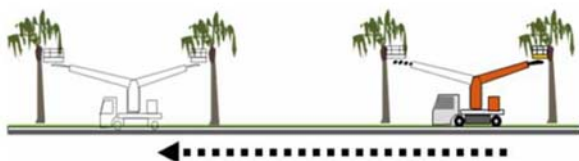


図-3 A案「端から植え替え」剪定作業イメージ

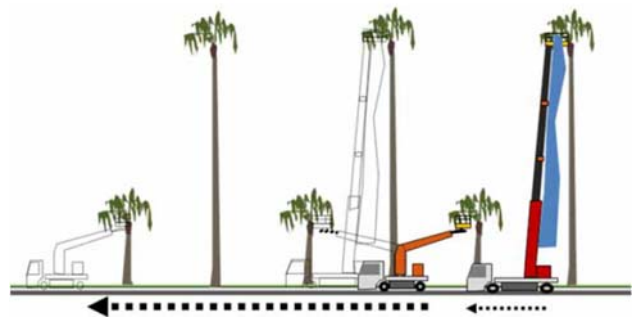


図-4 B案「1本置きに植え替え」剪定作業イメージ

#### 4. I期更新区間の施工と評価

##### (1) 施工内容

I期更新区間については、平成 27 年度に実施した検討会にて、植栽時期・環境への影響を考慮した結果試験施工区間として「一の鳥居交差点～デパート前交差点」の 1.2km を選定した。植え替えパターンについては、検討会において、アンケートで市民の意向を把握した上で決定する事となり、平成 28 年度に実施したアンケート結果から「端から植え替え」が優勢でとなり、I期更新区間の植え替えパターンがを決定した。

施工方針としては、平成 29 年度から 4 年かけて植え替えを行うこととし、4 年目が終了した現在は計 46 本の植え替えが終了している(写真-9)。樹高が高いもので 15m 以上あったワシントンパームは現在 5m 程度の高さとなり、植栽間隔については 7m 程度から 9m 程度に広げ、本数を減らしている(表-1)。



写真-9 植状況え替え状況

表-1 I期更新区間における植え替え内容

項目	植え替え前	植え替え後
樹高	10～16.7m	4.5～5m
植栽間隔	6～8m	9m
本数	79本	61本

##### (2) アンケート

試験施工として行ったI期更新区間の「端からまとめて更新」した後の市民意見の把握、またアンケートの実施を通じてワシントンパームの植え替えの取り組みを宮崎市民に広報することを目的に令和元年度にアンケートを実施した。アンケートでは路上聞き取りで 459 件、Web アンケートで 30 件、置き式で 81 件、配布式で 178 件の計 748 件のサンプルを回収した(表-2)。

表-2 アンケート手法

手法	概要	場所・対象	調査期間	回収サンプル数
①路上聞き取り	調査員が対面式で意見を聴取。	I期更新区間 アートセンター前(種物ポ ランテシア含む) JR宮崎駅 宮崎空港	令和1年10月19日 宮崎空港は10月27日	459件
②HP(Web)	事務所HPの検討会サイトにアンケートボタンを設置し、WEB上で意見を収集。	宮崎河川国道事務所HP	令和1年9月26日～10月31日	30件
③置き式	人の集まる場所にアンケート用紙を設置しその場で記入・回収。併せてパンフレットを配布し記載されたURLからHPのWebアンケートに誘導。	アートセンター ポタニクガーデン青島 宮崎市役所 宮崎県庁(3箇所) 宮崎河川国道事務所	令和1年10月1日～10月31日	81件
④配布式	自治会を通じ沿道住民の方にパンフレットを配布。記載されたURLからHPのWebアンケートに誘導。	沿道住民	配布日～令和1年10月31日	178件
				計748件

##### a) 属性

回答の男女比率として、男性が 47%、女性が 51%、無回答が 2%で男女比率は約半分に分かれた。居住地の回答は宮崎市が 76%と大半であったが、宮崎市を除く宮崎県に居住している人が 12%、宮崎県外が 10%であり県外に住んでいる人からの視点の意見も確認する事が出来た(図-5)。

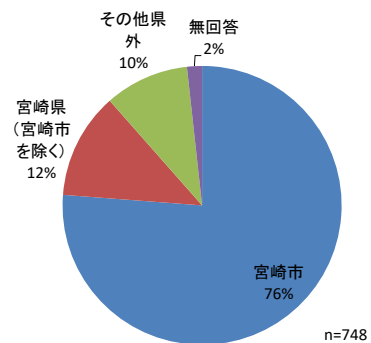


図-5 居住地

b) I期更新区間に対する評価

「植え替えて一斉に低くなったワシントニアパームについて、どのように感じるか」の質問の回答結果としては、「全く気にならない」「あまり気にならない」との回答が約 88%であり、まとめて植え替えた事に対してほとんどの人が違和感を感じていないことが分かった (図-6)。

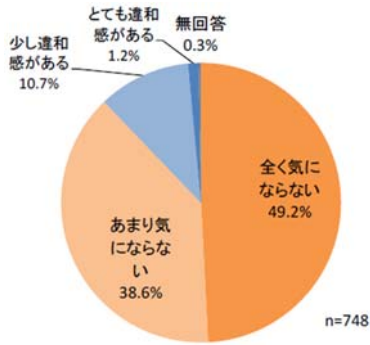


図-6 アンケート結果(1)

居住地別の回答を比較した図-7 については、どの居住地においても「全く気にならない」「あまり気にならない」との回答が 8 割以上で、傾向的に大きな差異が無かった。宮崎市内に住む回答者のうち沿道住民の 178 名の回答と全体の回答と比べても大きな差は無く、ワシントニアパームを日常的に見ている人、頻繁に見ていない人との間には景観としてワシントニアパームの見方に差がないことが分かった。

沿道住民で比較した場合、日常的にワシントニアパームを見ている沿道住民にいたっては、9 割の人が気にならないと回答した (図-8)。

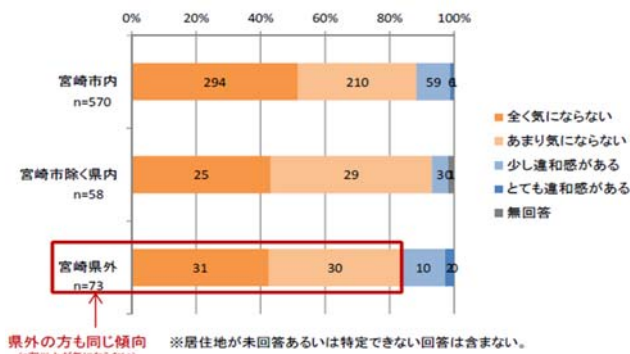


図-7 アンケート結果(2)

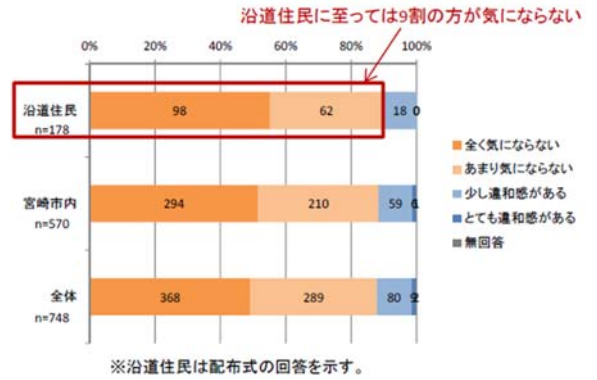


図-8 アンケート結果(3)

自由意見においては、景観面ではすっきりして良いといった肯定的な意見が、物足りないといった否定的な意見よりも多く、植え替えに関して肯定的な感情をいだいている人が多い事が分かった。安全面に関しても低い方が安全で良いといった意見や、植え替えて高さが低くなったことにより視界悪化の危険に懸念を感じているといった意見もあった。

また、植栽間隔を約 7m から 9m に広げたことに気づいた割合は約 15%で、そのうち約 7 割の人が「スッキリして良い」という肯定的な意見であった (図-9)。

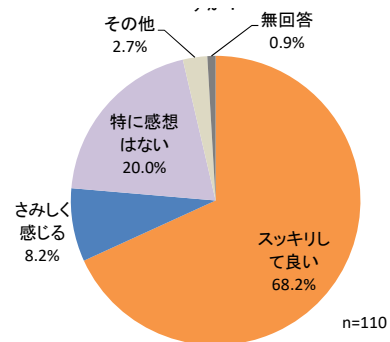


図-9 アンケート結果(4)

5. 広報活動の展開

ワシントニアパームのある景観を維持・持続させていくために、植え替えや苗の育成の必要性について理解を促す事を目的にした体験学習を、平成 29 年から実施している (写真-10)。

当初は事務所庁舎にて主対象を小学生以下の子供において、ワシントニアパームに対する「関心」「興味」の創出を目的に植え替え体験等を実施してきた。しかし昨年度は、主対象を一般市民まで拡大し、中心部にある宮崎

アートセンターの公開広場で実施した。さらにワシントニアパームの歴史の紹介やパームの展示コーナーを設けることにより、ワシントニアパームに対する「共感」形成を目的に実施した。



写真-10 植え替え作業風景

さらに、宮崎交通から宮崎の貴重な記録映像や写真をお借りし、BGV 上映や歴史パネル展も開催し多くの方が足を運ぶよう工夫を行い、参加した多くの方がワシントニアパームに関心を持ち、過年度から参加している子供は「ワシントニアパームの成長」を感じた事で愛着の醸成に繋げる事ができた(写真-11)。



写真-11 体験学習 集合写真

## 6. 今後の取り組み方針

現在、事務局としては、管理瑕疵の発生状況や維持管理の状況に鑑み、「端から更新」の A 案を第一とした計画としているが、ワシントニアパームの特徴である高さを重要視する意見も考慮して、維持管理と景観の面から区間ごとに地域特性にあった植え替え計画を進めていきたい。

さらに、今後事務所として以下のことに取り組んでいく予定である。

- ・引き続きII期更新区間および全体更新計画の「更新パターン」「更新区間」の検討を行っていく。
- ・市民にワシントニアパームへの取り組みを広く周知するため、広報の一つとなる体験学習を継続的に取り組んでいく。

## 7. おわりに

計画的な更新の実現には、安全性・作業性・景観・コスト面から検討を進めていく必要がある。とくに景観については、植え替えが長期に渡ることから、景観変化において違和感を小さく抑え途中段階の景観を考慮していく必要がある。国道 10 号および 220 号は宮崎県にとって重要な道路であるため、今後はさらに県や市と連携を図っていき更新計画を進めたい。

また、市民のワシントニアパームに対する関心を高めるため、継続して体験学習や広報活動を積極的に取り組んでいき、南国宮崎を象徴とするワシントニアパームのある風景を継承していく。

謝辞：本稿をまとめるにあたり、ご助言・ご指導・ご協力いただいた関係者の方々に深く感謝申し上げます